

# 2021年度自己評価結果（放課後くらぶ・ぐ〜）

2022年2月13日公表

## 運営方針

住み慣れた地域で、家族とともに暮らし、様々な経験を通して、それぞれの力に応じた自立した青年期・成人期を迎えられるよう、①生活能力の向上のために必要な訓練を行い、社会との交流を図ることができるように身体及び精神の状況並びにおかれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行います。②地域及び家庭との結びつきを重視し、他機関との連携を密に行えるように努めます。③本人や家族の困りごとに対して、意思や人格を尊重し適切に応えることができるように努めます。

また、障害特性・発達年齢に配慮しつつも生活年齢（実際の年齢）を大切にした相応の関わりを大切にします。

## 主な支援内容

下校時間も利用の終了時間も違い、また年齢も小学1年生から高校3年生までを対象としていることから、一斉に同じことをすることはほとんどありません。それぞれの支援目標に合わせた取り組みを行っています。

“一人で勉強する、遊ぶ”と、“複数人で遊ぶ”の両方を提供することで、一人で時間を過ごせることと、他人と協調して時間を過ごせること、その両方を学ぶ機会を大事にしています。

## 職員配置状況

利用定員10名に対して制度上必要な人員配置は児童発達支援管理責任者1名と1営業日あたり2名の指導員等です。

本年度は、以下のように配置しています。

管理者 兼	児童発達支援管理責任者	1名	（行動援護従事者養成研修受講済み）
児童指導員	常勤専従	2名（内、	2名強度行動障害支援者養成研修基礎研修受講済み
			1名強度行動障害支援者養成研修実践研修受講済み）
	非常勤専従	4名（内、	1名行動援護従事者養成研修・強度行動障害支援者養成研修基礎研修・実践研修受講済み）
保育士	非常勤専従	1名	

## 放課後等デイサービス保護者向け評価アンケート集計結果

- 実施期間** 2022年1月
- 実施方法** 各保護者に趣旨を説明した依頼文とアンケート用紙を配布した。  
回答用紙は、玄関に設置した回収ボックスに投函していただいた。
- 回収結果** 1月1日現在の放デイ契約者23名のうち、兄弟利用の保護者を1名とカウントし、22名の保護者にアンケートを配布、18名から回答があった。(回収率88.2%)
- 回答方法** 当てはまるところに○をつける  
(①はい・②どちらともいえない・③いいえ)  
ご意見(自由記載)

### 評価結果

#### <環境・体制整備>

- (1) 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか  
①13人 ②5人 ③0人  
子どもたちが過ごしている時間帯の中の様子を見ていないのでわからない。
- (2) 職員の配置数や専門性は適切であるか  
①15人 ②3人 ③0人  
その日その日の子どもの数とスタッフさんの数が分からないので適切かどうかわからない。
- (3) 事業所の設備等はバリアフリー化の配慮が適切になされているか  
①13人 ②5人 ③0人

#### <適切な支援の提供>

- (4) 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析されて上で放課後等デイサービス計画が作成されているか  
①16人 ②2人 ③0人
- (5) 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか  
①12人 ②6人 ③0人
- (6) 障害のない子どもと活動する機会があるか  
①3人 ②10人 ③5人  
特に必要と感じない

#### <保護者への説明等>

- (7) 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか  
①16人 ②2人 ③0人

(8) 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか

① 17人 ② 1人 ③ 0人

(9) 保護者に対して面談や育児に関する助言等の支援が行われているか

① 14人 ② 4人 ③ 0人

モニタリングの時だけでなくもっと面談の機会が欲しい。

相談支援事業者が開催する連携して情報共有をする会にいつも参加してもらっている。

(10) 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか

① 9人 ② 7人 ③ 2人

初めて茶話会に出席したが、普段会ったり話したりすることのない保護者の話を聞くことができてよかった。職員の話もためになった。

頻繁でなくてもいいので保護者会を開催してほしい。この前の会は大変勉強になった。

(11) 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか

① 14人 ② 3人 ③ 1人

そのような状況になったことはないが、そういった場合は直ぐに適切に対応してくれると思う。

(12) 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか

① 16人 ② 2人 ③ 0人

(13) 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか

① 15人 ② 3人 ③ 0人

(14) 個人情報に十分注意しているか

① 18人 ② 0人 ③ 0人

#### <非常時の対応>

(15) 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか

① 13人 ② 5人 ③ 0人

(16) 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか

① 7人 ② 11人 ③ 0人

#### <満足度>

(17) 子どもは通所を楽しみにしているか

① 15人 ② 2人 ③ 1人

とても楽しみにしている。

(18) 事業所の支援に満足しているか

① 17人 ② 1人 ③ 0人

子どもの様子をよく見ている迎へに行った時などに少しの変化でも教えてもらえる。

気持ちの不安定な状態を心配して対応してくれる。

子どもを見守り寄り添ってくれる。

親の話をよく聞いてくれる。

アドバイスもしてもらえる。

## 事業所における自己評価結果

A)工夫している点 B)課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標

### <環境・体制整備>

(1) 利用定員が指導訓練室等のスペースの関係で適切であるか

A) 学習エリア、遊びのエリア等のエリア分けをして活動をわかりやすくしている。

感覚過敏の利用者さんや一人で活動したい利用者さんのために、簡単な個室エリアを設定している。これにより自分のスケジュールに沿った課題学習や一人になりたい時に利用できる場の確保ができています。

(2) 職員の配置数は適切であるか

A) 非常勤職員を手厚く支援したい時間帯を中心に配置している。それにより必要な時間帯には基準以上の職員配置を行っている。また、学校の都合により下校時間が早い時などは非常勤職員の勤務をそれに合わせ早くするなどの対応をしている。

(3) 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮は適切になされているか

A) 今の利用者さんたちに対しては現状の配慮で問題はない。

B) 手すりは玄関前から中まで途切れなく設置しているが、今後歩行困難な方が利用するようになれば、必要に合わせて利用者の方に合わせた対応をする。

### <業務改善>

(4) 業務改善を図るためのPDCAサイクルに広く職員が参画しているか

- A) 利用者さん一人ずつの丁寧なモニタリングを行う中でスタッフの対応の仕方等について PDCA サイクルを活用して身につけ、次のステップに進んでいけるようにしている。
- (5) 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向を把握し、業務改善につなげているか  
心掛けています。
- (6) この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか  
ホームページのみの公開である。日頃の活動の様子なども掲載しているので引き続きホームページを見ていただけるような発信が必要。
- (7) 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか  
B) 第三者委員に来ていただきたいと思いながら、なかなか実現できないでいる。
- (8) 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか  
B) 確保しているが、研修で学んできたことを現場で十分に活かせていないでいる。  
学んだことを、目の前の利用者さんにどう活かしていくのかを職場内研修で更に学びを深める工夫をしていきたい。

#### <適切な支援の提供>

- (9) アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか  
A) 日々バージョンアップさせながら作成をしている。
- (10) 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか  
B) 利用者さんの年齢、障害のタイプ等に違いを考慮して幾つかのアセスメントツールを使用している。が、まだまだ子どもとアセスメントツールがうまくマッチングしていないと思われる利用者もいることから、同じものではなくても一人ひとりに合った標準化されたアセスメントツールを用意していきたい。
- (11) 活動プログラムの立案をチームで行っているか  
A) それぞれの得意分野を活かしてプログラムの提案は行っている。  
B) どのスタッフも、新たな活動プログラムを提案できるように積極的に働きかけていきたい。
- (12) 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか  
A) 教材・おもちゃ等を1～2か月おきに入れ替え等を行って、飽きさせない工夫や次のステップへの移行がスムーズにできるようにしている。また、個々の支援目標に合わせた教材やおもちゃは市販されているものでは十分でないことも少なくないことからスタッフが手作りの教材やおもちゃを作

って提供することも少なくない。

- (13) 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか
- B) 一人一人の特性や利用時間（開始と終了）を踏まえた設定をしている。  
長期休暇中の設定は時間と特性を始めとした様々な制約の中で設定しているため、もっといろいろなことを、と思ってもなかなかできないことが課題。特に今年度も、コロナ禍の中で感染防止を第一に考えてきたことから以前のような活動を展開できなかった。
- (14) 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか
- A) 特に小集団の活動については計画を基礎に置きながらも年齢・特性・各々の力を考えながら集団を作り、活動をしている。
- (15) 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか
- A) 毎朝、ミーティングを行い確認や問題点の共有を行っている。
- (16) 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気づいて点を共有しているか
- A) 利用者さんの送迎やスタッフのシフトの関係で支援終了後には出来ないためその分を支援開始前に行っている。終了後に急ぎ打ち合わせた方がいい事案が発生した場合は、時間外で行う事としている。
- (17) 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか
- A) 利用者さん共通の記録用紙に記入するだけでなく、問題と思われる行動や改善していきたい行動等が見られた時は、まずは現状の把握から行うために課題に合わせた記録用紙を作って記録し、検証⇒改善につなげている。
- (18) 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか
- A) 児発管を中心に、定期的にスタッフのミーティングを行い見直しの必要性など検証している。
- (19) ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか  
行っている。

#### <関係機関や保護者との連携>

- (20) 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか  
参加している。
- (21) 学校との情報共有、連絡調整を適切に行っているか
- B) 一部の利用者さんとは（相談支援事業所が中心となって）情報共有等を図

っている。また、必要に応じて担当する相談支援専門員さんに依頼して情報共有の場をセッティングしてもらっている。しかし多くは共有等ができていない。学校の送迎時にも「変わりありません」の一言で送り出されることが多い。

(22) 医療的ケアが必要な児童について

B) 受け入れのニーズは感じているが、子どもに対応できる常勤の看護師が確保できない以上は責任をもって利用していただくことが困難であると考えている。

(23) 就学前に利用していた機関との間で情報共有と相互理解に努めているか

B) 必要に応じて行っているが、保護者や相談支援専門員から教えていただくことも少なくない。

(24) 学校を卒業し、障害福祉事業所に移行する場合に情報を提供する等しているか

A) 求められた時には、速やかに情報提供を行っている。

(25) 専門機関と連携し助言や研修を受けているか

必要に応じて、法人の人脈を生かして行っている。また、医療機関とは必要に応じて連携して助言もいただいている。

(26) 障害のない子どもと活動する機会はあるか

B) ないのが現状である。他の放デイ事業所で、どのようにしているのかを教えてください。

(27) 地域自立支援協議会等に積極的に参加しているか

A) 案内があれば、子ども部会には必ず参加している。

(28) 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか

A) モニタリングの時だけでなく、送ってきた時、迎えに来た時等に玄関等を活用して伝えたり教えていただいて共通理解を図るように心がけている。

(29) 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか

A) 系統立てたペアトレではないが、子どものこういう行動にはこういう対応を、と理由も含めて具体的な親の対応の仕方等の支援をそれぞれの置かれた家庭状況等も踏まえて必要に応じて行っている。

<保護者への説明責任等>

(30) 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか

A) 利用契約時は一度にたくさんの内容を説明しているので「その時は解ったつもりでも」ということが往々にして起こりがちである。契約時に、いつでも気軽に質問してもらえよう言葉がけをしている。

(31) 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行

っているか

B) 保護者アンケートの要望も踏まえ、モニタリングの場以外にも面談の機会を作って、相談できる機会を増やし、更にきめ細かい対応を考えていきたい。

(32) 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか

B) コロナの流行が落ち着いた時期に保護者会（茶話会）を開催した。就労している保護者からの要望も踏まえ、時期や曜日を変えて複数回の保護者会を実施し、多くの保護者に参加していただけるように工夫をしていきたい。

(33) 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ丁寧に対応しているか

A) 苦情に対しては「言いにくいことを言っていた」 という感謝と共に対応をさせていただいている。

B) 言いたいこと（苦情）があるのに言えないで我慢している保護者もいらっしゃるかもしれない、ということを常に考えて「苦情を言っている」ということも発信していきたい。

(34) 定期的に会報等を発行し情報を子どもや保護者に対して発信しているか

A) 月に一度発行している「はとぼつぼ通信」には、福祉の情報や子育て・療育にヒントになる記事等を掲載している。また、タイムリーな発信としてホームページにブログを載せている。

B) ホームページ・ブログの存在は折に触れ、口頭や玄関の掲示板等でお伝えしているが、まだまだ浸透していない感がある。更に伝えていきたい。

(35) 個人情報に十分注意しているか

十分な注意を払っている。

(36) 障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮はしているか

A) 自分たちの出来る範囲で工夫をしながら行っている。

(37) 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか

A) コロナ禍の中、本年度も実施できなかった。

#### <非常時等の対応>

(38) 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか

B) (30) 同様に、何度も発信をしていきたい。

(39) 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか

A) 子どもたちの特性等も考えて、大々的にではなく行っている。

(40) 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか

A) 行っている。ただ虐待の防止は研修を重ねさえすればいいという事ではなく常に風通しの良い職場であることが防止につながる第一歩なので、そ



のよう心掛けている。

(41) 身体拘束について組織的に決定し、事前に十分に説明し了解を得た上で放課後等デイサービス計画に記載しているか

A) “決定・説明・了解・計画に記載”は必要に応じて行う事としている。が、身体拘束はしないことを前提に支援を組み立てているのでスタッフには身体拘束をする場合も有りうる、という認識がなく、身体拘束をしなければならない状況を引き起こさない対応を行っている。身体拘束はしていない。

(42) 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか

A) 食物アレルギーについては、プロフィールに細かい記載を保護者をお願いし、必要に応じて医師の指示書も準備していただくこととしている。

(43) ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか

A) その都度、打ち合わせ、ミーティング等でも話しをしてより共有しやすくなるよう工夫をしている。